

「経営系専門職大学院の機能強化に資する 取組についての調査研究」進捗状況

2016年12月19日

同志社大学大学院ビジネス研究科
(同志社ビジネススクール:DBS)



調査研究の構成

- I. 産業界のニーズに応える教育プログラムの開発についての調査研究(以下では「ノンディグリー・プログラム等調査研究(NDP等調査研究)」という)
- II. 経営系専門職大学院における教員の指導能力の開発についての調査研究(以下では「FD調査研究」という)
- III. 経営系専門職大学院の教育を推進するための産学連携のあり方についての調査研究(以下では「産学連携のあり方調査研究」という)

ノンディグリー・プログラム等調査研究の内容

1. 主としてノンディグリー・プログラムを対象とする。
2. ノンディグリー・プログラムには次のようなバリエーションがあることを想定
 - ① 産業界が期待する最新知識を吸収することを目的とする短期研修(最新トピック教育プログラム)
 - ② 継続教育を意識し、正規プログラムとの連動を考慮したプログラム(継続教育プログラム)
3. 調査内容
 - ① 国内外経営大学院のノンディグリー・プログラムの目的、教育内容、正規プログラムに対する位置づけ、教育方法、受講生のプロフィール、研修期間、費用、その他
 - ② 企業の教育研修体系、社内研修と外部機関研修の関係、経営系大学院正規プログラムへの印象・評価・費用負担方針、同ノンディグリー・プログラムへの印象・評価・費用負担方針、その他

FD調査研究の内容

- 経営系大学院における研究者教員と実務家教員の連携
 - FD全般
 - 研究者教員と実務家教員の連携の状況
 - その教育力向上への効果
- 研究者教員と実務家教員の連携の意義として想定していること
 - 研究者教員：長年の教育経験に基づくクラスマネジメントや教授法、良質なテキストや講義資料の選択、シラバスや教材の作成能力に優れる。
 - 実務家教員：豊富な実務経験に基づく知識・情報、幅広いネットワークに優れる。
 - 相互の連携により教育力の向上が可能。

FD研修会の実施

1. OJT型FD研修会

- 「逸品」ものづくり経営塾にて、FDに関する調査研究結果を踏まえて、研究者教員と実務家教員が参加するOJT型FD研修会を開催。

2. 合同FD研修会

- 参加を希望する専門職大学院を含む経営大学院と合同FD研修会を実施。

産学連携のあり方調査研究の内容

1. 調査研究テーマ：産業界の経営系専門職大学院における実践的教育に関する調査研究
2. 面談調査先：同志社大学校友会、京都経済同友会、DBSのノンディグリー・プログラム参加企業等
3. 調査事項
 - ① 経営系大学院の正規プログラム及びノンディグリー・プログラムで取り上げるべき最先端実務トピックス
 - ② 企業内研修担当者の能力向上のために大学院で提供可能な研修プログラム
 - ③ 最先端の知識を経営大学院で教授する実務家の確保方策と大学での受け入れ体制
 - ④ 常勤の実務家教員の知識の陳腐化を防ぐ方法
 - ⑤ 経済団体の実践的教育への関与

産学連携人材育成ラウンドテーブル委員

- 企業側委員(五十音順)
 - 新村猛氏(がんこフードサービス株式会社取締役副社長、DBS嘱託講師)
 - 中村恭祐氏(バンドー化学株式会社取締役常務執行役員)
 - 西山裕子氏(株式会社ユニサーチ顧問・マーケティングPRディレクター、DBSN(DBS同窓会)副代表幹事)
 - 領内修氏(株式会社SCREENホールディング顧問、DBS客員教授)
- 大学側委員(五十音順)
 - 栗木契氏(神戸大学大学院経営学研究科教授)
 - 定藤繁樹氏(関西学院大学経営戦略研究科研究科長/教授)
 - 清水信匡氏(早稲田大学大学院経営管理研究科教授)
 - 中川優氏(同志社大学大学院商学研究科教授)
 - 福代和宏氏(山口大学大学院技術経営研究科研究科長/教授)
- DBS:加登豊研究科長、児玉俊洋ほかDBS教員

調査研究項目と調査方法

調査研究項目		NDP等調査研究	FD調査研究	産学連携のあり方調査研究
訪問調査	国内経営系大学院(Web情報調査を併用)	・訪問実施中 ・報告作成中	・訪問実施中 ・報告作成中	
	海外ビジネススクール	・日程調整中	・日程調整中	
	企業	・訪問実施中		・訪問実施中(関係団体も対象)
質問票調査 (Webによる調査)	国内経営系大学院	・質問票作成中	・質問票作成中	
	東証一部上場企業	・質問票作成中	・質問票作成中	
産学連携人材育成ラウンドテーブルの開催		・3回開催済み(全7回)		
DBSのNDPを活用した調査研究		・対象NDP(逸品ものづくり経営塾)を開催中	・OJT型FD研修会開催予定 ・合同FD研修会開催予定	

国内経営大学院訪問調査の進捗状況 (ハンディグリー・プログラム調査研究部分)

国内経営系大学院訪問調査先(2016年12月現在)

- 大阪工業大学知的財産専門職大学院
- 小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻
- 関西学院大学大学院経営戦略研究科
- 九州大学専門職大学院ビジネススクール
- 神戸大学大学院経営学研究科
- 中央大学大学院戦略経営研究科
- 筑波大学大学院ビジネス科学研究科国際経営プロフェッショナル専攻
- 同志社大学大学院ビジネス研究科
- 一橋大学大学院国際企業戦略研究科
- 法政大学経営大学院イノベーションマネジメント専攻
- 北海道大学会計専門職大学院
- 明治大学大学院経営学研究科
- 山口大学大学院技術経営研究科
- 立教大学大学院ビジネスデザイン研究科
- 早稲田大学大学院経営管理研究科

(注)五十音順で表記。今後、さらに数校を訪問予定。

ハンディグリー・プログラムの実施状況

ハンディグリー・プログラム実施有無

	大学数
訪問調査済み大学	15
ハンディグリープログラムを実施	11
特定企業向けカスタムメイドプログラムのみ実施	2
実施なし	2

ハンディグリー・プログラムの目的

	主要目的	副次的目的
大学院運営のための資金獲得	2	2
MBA修了生の継続的教育機会の提供	1	1
MBA正規プログラムへの道筋作り	7	0
教員の教育経験の蓄積	3	1
産業界や企業との連携強化	4	2

国内経営系大学院訪問調査に見る主な特徴

- ハンディグリー・プログラムは資金獲得目的よりも、MBA正規プログラム入学への道筋作り、産業界や企業との連携強化、教員の教育経験の蓄積を目的として実施されている例が多い。
- サポート要員や予算措置などプログラムの運営体制が課題であるとの指摘が目立つ。資金受け入れの組織に関する指摘もある。
- 地域の関係団体（地域経済団体、公的産業支援機関、国の出先機関、金融機関等）との連携の下に実施されている例も目立つ。これによってサポート体制を補完している例もある。

企業訪問調査の進捗状況

訪問先企業(2016年12月現在)

- 上場企業
 - 小野薬品工業株式会社
 - オムロン株式会社
 - バンドー化学株式会社
- 京都経済同友会関連企業 1社
- 中堅・中小企業(関東) 3社

- 今後の訪問予定
 - 上場企業 10社程度
 - 同志社校友会、DBSのNDP参加企業

企業訪問調査に見る特徴的な指摘

- ハンディグリー・プログラムへの期待として、変化の激しい分野の研修は陳腐化が早いので意味がない。それよりも企業の競争力の源泉になるような無形の資産として残るところを学ぶことに意義があり、また、自分で学ぶことをサポートするプログラムが望ましい。
- 中小企業（特に経営系大学院への派遣未実施の企業）では経営教育の必要性の認識を強めているとの回答が目立つ。その背景として、自立性や企画力を求められる経営環境の変化とともに、事業承継期を迎え後継者およびそれをサポートする幹部人材の育成が必要になっている例がある。
- 中小企業にとって専門的な経営教育は外部専門機関の活用が必要であり、その中で経営系大学院も候補となっているが、経営系大学院の価値を知るための機会が求められている（ハンディグリー・プログラムへのひとつのニーズ）。

海外ビジネススクール訪問調査予定

海外ビジネススクール訪問予定先

- 訪問予定先
 - 米国：スタンフォード大学、クレアモントカレッジ、コロンビア大学、マサチューセッツ工科大学、南カリフォルニア大学
 - 英国：ロンドン・スクール・オブ・ビジネス、ロンドン・ビジネススクール、アシュリッジ・ビジネス・スクール、サイード・ビジネス・スクール、マンチェスター・ビジネス・スクール、シェフィールド・ビジネス・スクール、エディンバラ・ビジネス・スクール
 - アジア：シンガポール国立大学、(訪問中)チュラロンコン大学(訪問中)
- 訪問済み、資料入手済み等
 - 釜山大学(訪問済み)
 - ハーバード・エグゼクティブ・プログラム資料入手済み
 - UCLA国内ヒアリング予定
 - 英国認証評価関連資料入手済み

(参考)DBSのノンディグリー・プログラム

DBSのノンディグリー・プログラム

- 「逸品」ものづくり経営塾 <https://www.facebook.com/ippinjyuku/>
 - 主宰者: 加登 豊
 - 主催: NPO法人同志社大学産官学連携ネットワーク
 - 後援: DBS、公益財団法人京都産業21、株式会社白桃書房
- 伝統産業グローバル革新塾 http://bs.doshisha.ac.jp/kakushin/what/what_index.html
 - 主宰者: 村山 裕三
- 成長のための経営戦略講座（イノベーションコース、ファイナンスコース） <http://kyoto-koyop.jp/support/keieijinzei-dbs/>
 - 企画・運営責任者: 児玉 俊洋
 - 主催: DBS、公益財団法人京都産業21
- DBS会計研究会 <http://bs.doshisha.ac.jp/studygroup/groups/dbsac.html>
 - 顧問: 蔵本 一也
- ファイナンス研究会 <http://bs.doshisha.ac.jp/studygroup/groups/finance.html>
 - アドバイザー: 浜 矩子、藤原 浩一

「逸品」ものづくり経営塾

フェイズⅡ 第5期(通算 第9期)
(開催期間:2016年10月-2017年9月)

先行募集中

主催 : D-BRIDGE(NPO法人同志社大学産官学連携支援ネットワーク)
 主宰者 : 加登 豊(同志社大学大学院ビジネス研究科 研究科長 教授、
 日本原価計算研究会理事(元会長)、日本管理会計学会会員(元副会長))
 後援組織 : 同志社大学大学院ビジネス研究科(同志社ビジネススクール)
 (予定) 公益財団法人 京都高度技術研究所
 株式会社 白桃書房

目標

世界一のビジネスシステム(事業の仕組み)のあり方を探り、自社業績の飛躍的向上を目指す
(8年間実績:参加企業47社、18プロジェクト)

成果

参加費の数百倍～数千倍のリターン
 売上高、利益額、利益率、コスト低減、環境負荷低減(排出権取引金額換算)、品質問題再発防止によるコスト節減など

進め方の特徴

全体会議と実践力向上プロジェクトの連携

全体会議:現状確認と最新情報入手
 実践力向上プロジェクト:現場での問題点整理、問題解決

ベンチマーキング手法の活用(オープンイノベーション)

特定の企業の問題解決を、異業種企業の協力を得ながら行う
(教えることが最高の学び)

アウトプット

- ・新製品(サービス)開発マネジメントの革新・変革
- ・高収益を生むビジネスシステム構築
- ・国際競争力の向上
- ・参加者の力量(コンピテンシー)の劇的向上

講演者

第9期全体会議の講演予定者

重松 崇 氏(富士通テン株式会社 代表取締役会長)
 喜田 昌樹 氏(大阪学院大学 経営学部 教授)
 瓜生原 葉子 氏(同志社大学 商学部 准教授)
 高岡 謙二 氏(エクスポート・ジャパン株式会社 代表取締役)
 那須 恵太郎 氏(株式会社サンテレビジョン(東京支社)
 編成局編成部 次長 東京担当 兼 経営企画室)
 加登豊 (塾長) その他

その他、新製品開発マネジメント、マーケティング、組織論、経営戦略、管理会計、品質管理、環境マネジメント、関連法令等、新製品開発マネジメントに関連する国内外の第一線の研究者、(東京大学、京都大学、神戸大学、慶應義塾大学等)および国内外の実践者を講師として招聘予定

実践力向上プロジェクト:正しい問題認識と問題解決

プロジェクトα	プロジェクトテーマ:キャッシュフローの総合的管理
プロジェクトκ	k1:良書会 (優れた書籍から先人の叡智を学ぶ) k2:インサイトプロジェクト (競争力強化に必要な能力開発プロジェクト)

参加費用

【全体会議+実践力向上プロジェクトへの参加】(主催者は非課税団体のため、消費税の負担はありません)

80万円

※全体会議・プロジェクトκ:1社3名まで参加が可能
 ※実践力向上プロジェクトα:参加にあたっては、秘密保持契約を締結していただきます

本件に関するお問い合わせ

NPO法人同志社大学産官学連携支援ネットワーク(担当:武市たけいち) TEL:075-251-3147 MAIL:ji-liai3@doshisha.ac.jp

全体会議講演者（所属・肩書きは講演時のものです）

第Ⅴ期

- プレイベント 梶原 奈美子 氏（キリンビール株式会社マーケティング部 マーケティング部 商品担当）
 第一回 浜 矩子 氏（同志社大学大学院ビジネス研究科 教授 研究科長）
 第二回 佐々木 かをり 氏（株式会社イー・ウーマン 代表取締役社長
株式会社ユニカルインターナショナル 代表取締役社長）
 第三回 下野 雅承 氏（日本IBM 取締役副社長 執行役員）
 第四回 蔵本 一也 氏（神戸大学大学院経営学研究科 准教授）
 第五回 服部 泰宏 氏（滋賀大学経済学部情報管理学科 経営情報講座 准教授
同志社大学大学院 ビジネス研究科 非常勤講師）
 第六回 吉村 典久 氏（和歌山大学経済学部ビジネスマネジメント学科 教授）
 第七回 久保田 五十一 氏（ミズノテクニクス株式会社 パット名人）
 第八回 高乗 正行 氏（株式会社チップワンストップ 代表取締役）
 第九回 梶原 武久 氏（神戸大学経営学研究科 教授）

第Ⅵ期

- 第一回 北 寿郎 氏（同志社大学大学院ビジネス研究科 教授）
 第二回 原 英次郎 氏（ダイヤモンド・オンライン編集長）
 第三回 松村 憲吾 氏（月桂冠株式会社総合研究所副主任研究員）
 第四回 西尾 久美子 氏（京都女子大学 現代社会学部 教授）
 第五回 忽那 憲治 氏（神戸大学大学院 経営学研究科 教授）
 第六回 竹内 雄司 氏（マツダ株式会社 人事室 副室長）
 第七回 矢崎 和彦 氏（株式会社フェリシモ 代表取締役社長）

第Ⅶ期

- 第一回 村山 裕三 氏（同志社大学副学長 ビジネス研究科 教授）
 第二回 鈴木 竜太 氏（神戸大学大学院経営学研究科 教授）
 第三回 多賀 公人 氏（KSB瀬戸内海放送 アナウンサー・プロデューサー）
 第四回 河村 忠夫 氏（バンドー化学株式会社 顧問）
 第五回 服部 泰宏 氏（横浜国立大学大学院国際社会科学研究院 准教授）
 第六回 神藤 龍一 氏（ヤンマーミュージアム 副館長）
 第七回 亀田 省吾 氏（医療法人鉄蕉会 亀田クリニック 院長・学校法人鉄蕉館 理事長）
 栗栖 千幸 氏（亀田医療大学 看護学部 講師）
 第八回 河本 扶美子 氏（株式会社 ファーストブランド 代表取締役
パーソナルブランドビルダー・神戸大学非常勤講師）
 第九回 柴 健次 氏（関西大学大学院会計研究科 教授）

第Ⅷ期

- 第一回 井上 達彦 氏（早稲田大学商学学術院教授
早稲田大学産官学研究推進センターインキュベーション推進室長）
 第二回 清水 信匡 氏（早稲田大学 大学院ファイナンス研究科）
 第三回 栗原 潤 氏（キャングローバル戦略研究所研究主幹
関西学院大学総合政策学部客員教授）
 第四回 遠藤 功 氏（早稲田大学ビジネススクール 教授
株式会社ローランド・ベルガー 会長）
 第五回 上田 隆穂 氏（学習院大学経済学部 教授 博士（経営学））
 第六回 事業所訪問（川崎重工業 明石工場・カワサキワールド）
 第七回 横山 剛 氏（SRCグループ会長KissFMKOBE 代表取締役社長）
 第八回 Adam Johns 氏（同志社大学 ビジネス研究科 准教授）
 第九回 松本 輝雅 氏（株式会社三共製作所 株式会社サンキョウ ティー・キュー
ものづくり）株式会社大正（ヒューマンリソース）各代表取締役）
 第十回 三矢 裕 氏（神戸大学大学院経営学研究科 教授）

実践力向上プロジェクト

第Ⅴ期

- プロジェクトα プロジェクトテーマ：グローバル経営
 プロジェクトκ1 良書会
 プロジェクトκ2 競争力強化に必要な能力（ケイパビリティ）開発プロジェクト

第Ⅵ期

- プロジェクトα プロジェクトテーマ：戦略とオペレーションを架橋する
 プロジェクトκ1 良書会
 プロジェクトκ2 競争力強化に必要な能力（ケイパビリティ）開発プロジェクト

第Ⅶ期

- プロジェクトα プロジェクトテーマ：製品別利益管理
 プロジェクトκ1 良書会
 プロジェクトκ2 競争力強化に必要な能力（ケイパビリティ）開発プロジェクト

第Ⅷ期

- プロジェクトα 組織情報収集・処理能力の向上
 プロジェクトκ1 良書会
 プロジェクトκ2 競争力強化に必要な能力（ケイパビリティ）開発プロジェクト

第1期から第4期までの活動実績につきましては、趣意書をご参照ください